

新保磐次著
日本讀本

第三

T1A3

10

Sh55a

石垣
學館
新
得之印

保磐次著

日本讀本 第三

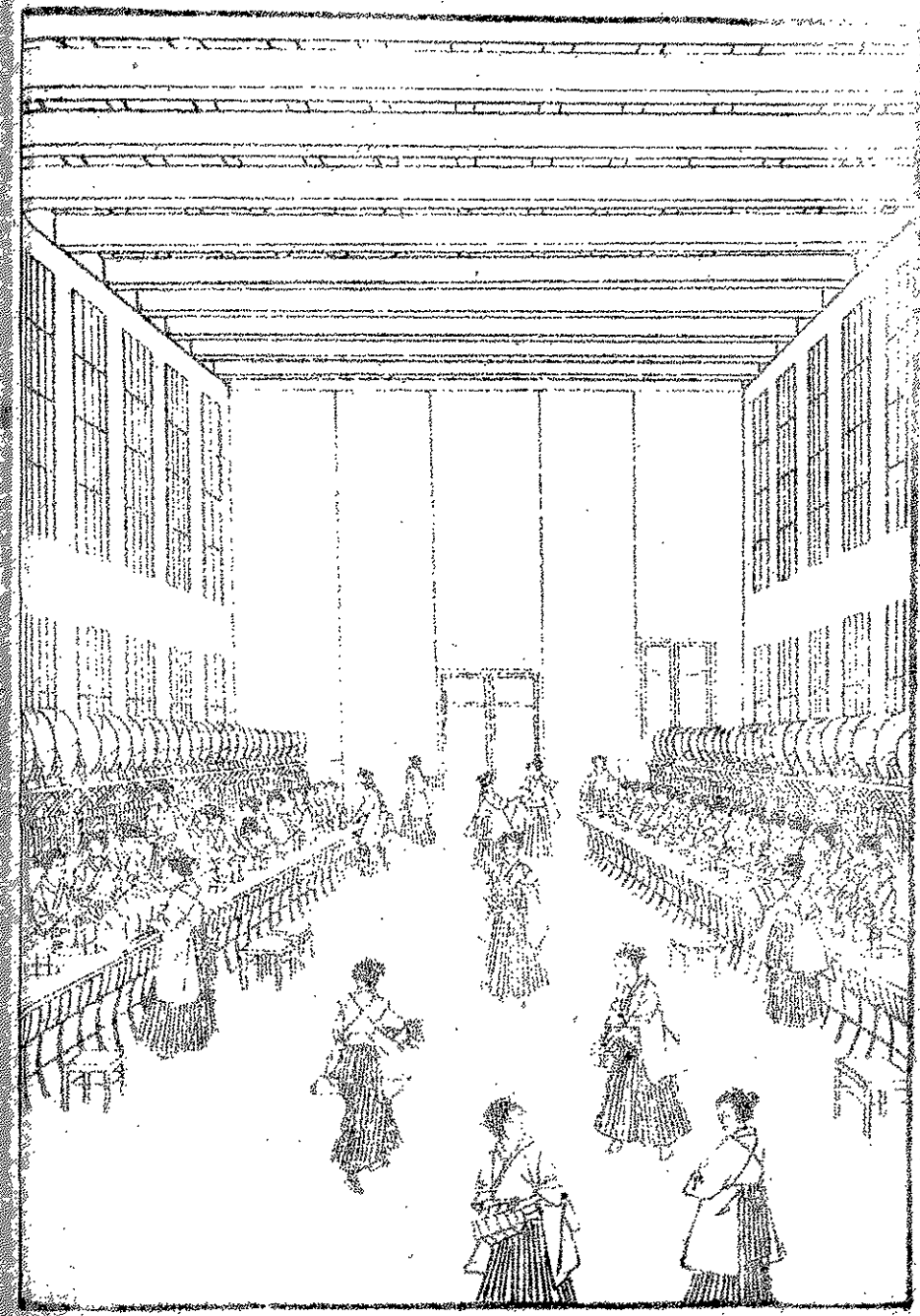
明治三十一年一月文部省檢定簿小學教科用書

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 8 6 4 1 a

福岡教育大學蔵書



蠶

愛速生長合蠶桑

休巢繭雀卵真綿

引四角羽蝶生煮

繰器械上野車富岡

製糸場錢虫

喜が母ト姉ハフカク吾レヲ愛ス。母ト

姉が愛レソダテテ生長ヲ樂ムモノナホ一ツアリ。

其ノ物ハ小サキ足六本アリテ^{之多脚}アユムコト甚遅ケレドモ其ノ食フコトハ甚速ニシテ食フテハ眠リ食フテハ眠ル。生長亦甚速ニシテ其ノ皮タチマチ身ニ合ハザルニイタル。身ニ合ハザレバ皮ヲ又グ。

カク云ハバアヤシキ物トオモフナラン。然レドモアヤシキ物ニハアラズ、蠶ト云フ虫ナリ。蠶ハ桑ノ葉ヲ食ヒ食ヒ初ムルハ七日ノアヒダ休ムコトナシ。食ヒヲハレ

バ眠リ眠レバ三日ノアヒダ寤ムルコトナシ。五タビメノ眠リニイタレバコレヨリ長ク休マンタメ口ヨリ糸ヲハキ出シ、巢ヲツクリテ其ノ身ヲツツム。コノ巢ヲ繭ト云フ。繭ノ形ハ丸ク雀ノ卵ヨリ大キクニテ白キモアリ又黄ナルモアリ。

繭ヲ煮テ引キ出シタル糸ハ絹糸ナリ。繭ヲヤブリテ四角ニノバセバ真綿トナル。繭ヲ久シクオケバ中ナル蠶ハ羽ヲ生ジ

テ蝶トナリ、ミヅカラ繭ヲヤブリテ出ヅ。
蝶ハ卵ヲ生ミ、蠶ハコノ卵ヨリ生ル。

人絹糸ヲ取ラントオモヘバ、蝶ノ未ダ出
デザル前ニ、アハレニモ繭ヲ鍋ノ中ニ入レ、
蠶ヲ煮コロシテ糸ヲ引キ出ダス。

吾ガ家ニハ手繰器械ニテ糸ヲ引ク。澤
山ノ糸ヲ引クニハ、大キナル器械ヲ用フ。
前ニ出セル畫ハ、上野ノ國ナル富岡ノ製糸
場ノケレキナリ。見給ヘ多クノ車ハ錢ヲ

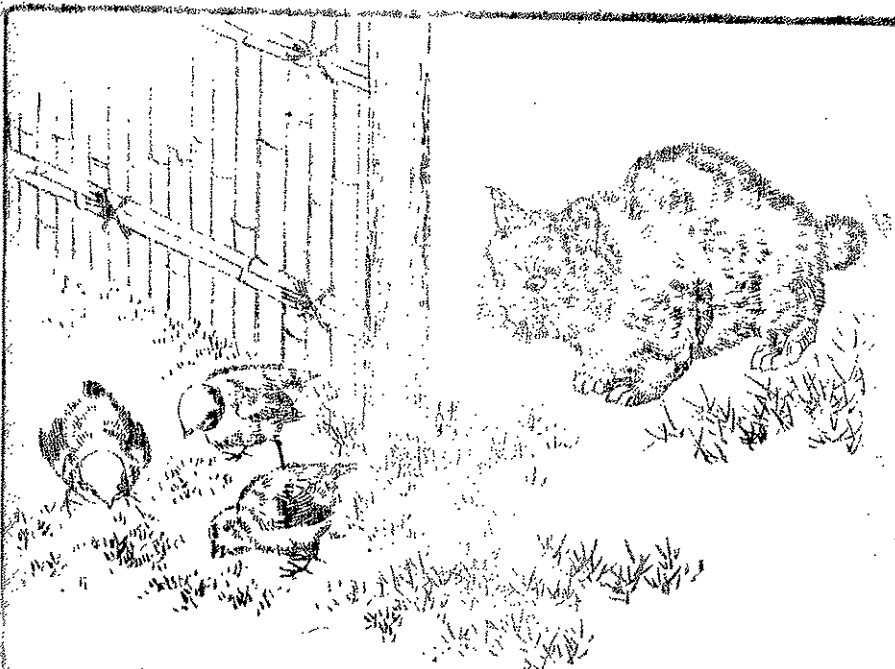
ツナギタル如クニナラビタリ。

好キ器械ヲ用フレバ、一人ニテモ百人又
八十人ノハタラキヲナス。コノ製糸場ニ
テハ一日ニ甚多ク糸ヲ製スルナラン。

猫が來ル。

快 考 老 行 無用 門
開

此ノヒヨコハ快ク遊ベリ。ヒヨコガ心
ニ考フルニハ、吾ガ父母ハ吾レヲシテ快ク



遊バシメズ。吾ガ遠
キトコロニ行クコト
ヲユルサズ。父母ハ
年老イテ無用ナル考
ラナス。吾ガ足ハカ
ク大キナリ。吾ガ口
バシハカクスルドレ。
吾レ何者ヲ恐レンヤ。
今門ハ開キタリ。

ザ行キテ快ク遊バシト。

ヒヨコヨ何エエ父母ニシタカハヌカ

ソレ猫ガ來ル猫ガ來ル。

名ヲアテヨ。

僕 委 語 問 仲間 空中

飛 骨 同名 得

僕ガ名ヲアテテ見ヨ。僕ハ僕ノ形ヲ語

ラン。何ニテモ問ヒ給ヘ。

然ラバ問ハン。君ニ目アリヤ。

目アリテ糸目ト云フ。

君ニ尾アリヤ。

二本ノ尾アリ。僕ノ仲間ニハ尾ナキモ

アリ。

羽アリヤ。

羽ナケレドモ僕ハ能ク空中ニ飛ブ。

骨ト皮アリヤ。

皮モアリ骨モアリ。皮ハ紙ニシテ骨ハ

竹ナリ。然レドモ僕ト同名ノ者ニ骨ナキ

者アリ。

手足アリヤ。

手モ無ク足モ無シ。然レドモ僕ト同名

ノ者ニ八本ノ足ヲ持テル者アリ。僕ノ名

ヲ知り得タルカ。

彌次郎兵衛

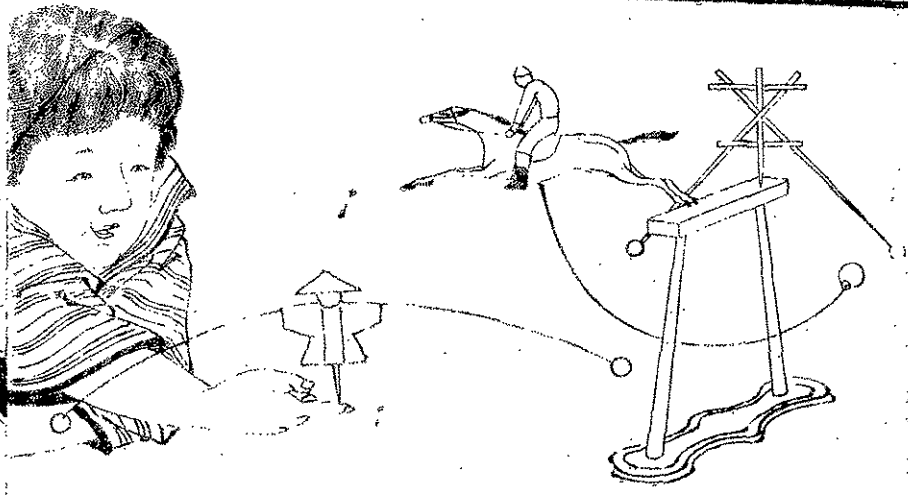
彌次郎兵衛 次 切 先 人形

黍 後 糊付 腹 差 割 實

込 尖 脇 拳 蚊 乘 指

心配程組爪各

君ハ彌次郎兵衛ヲ作り得ルカ。彌次郎
 兵衛ヲ作ルニハ先紙ヲ切りテ、人ノ形ヲ
 作レ。次ギニ黍ガラヲ短ク切りテ、此ノ人
 形ノ後口ニ糊付セヨ。黍ガラハ人形ノ腹
 ノ如シ。次ギニ細ク割リタル竹ヲ黍ガラ
 ノ下ニ差シ込メ。此ノ竹ヲ前ノ方ヨリ
 見レバ、短キ一本ノ足ニ似タリ。其ノ次ギ
 ニ又細ク割リタル竹ヲ二本取り、其ノ先キ



ヲ尖ラシテ、豆ヲ一ツツツ
 差セ。豆ハ水ニヒタセバ
 和カニナル。此ノ豆ヲ差
 シタル竹ノ一方ヲ尖ラセ
 テ、各人形ノ兩脇ニサセ。
 前ヨリコレヲ見ル時ハ甚
 長キ手ト見ユ。豆ハ人形
 ノ拳ノ如ク見ユ。
 「彌次郎兵衛ヨ、汝ノ形ハ

實ニヲカシ。其ノ手ハ蚊ノ足ヨリモ細長シ。其ノ大キナル拳ガ重クハアラヌカ、其ノ短ク小サキ足ニテ立ち得ルカ。

心配シ給フナ。立ツカ、立タヌカ、君ノ指ニ乗セテ見給へ。此ノ足ガ短キ故ニ能ク立ツナリ。手が長クテ拳が大キナル故ニヨク立ツナリ。吾ガ足ハ短キ程ヨシ。吾ガ手ハ長キ程ヨシ。吾ガ拳ハ太キ程ヨシ。彌次郎兵衛ハ亦細キ竹ノミヲ組ミ合ハセ

テモ作ラハルノリ。オモチヤ店ニハ美シキ彌次郎兵衛アリ。馬ニ乗リタル彌次郎兵衛アリ。其ノ馬ハ一本ノ足ノ爪ニテ立テ、上下ニアラレテモ、オツルコト無シ。

名ヲ知ルカ。

穴汁務粥善察煤光様子委

君ハ吾ガ名ヲ知り給フカ。吾レハ吾ガ身ノ様子ヲ委シク語ルベシ。吾ガ名ヲ考へ給へ。

吾レハ短キ足ヲ三本持テリ。吾ガ耳ニハ三ツノ穴アリテ、兩耳ニツルヲカクタリ。吾ガ朋友ニハ耳ノ穴ヲ五ツ持テル者アリ、只一ツヲ持テル者モアリ。

「汁ヲ煮粥ヲ焚クハ吾ガ務メナリ。煤ノ爲ニ色黒ケレトモ善ク洗ヘバ、甚善キ光リヲ出ダス。吾ガ名ヲ察シ給ハ。」

塩

醬油 漬 付 殘 底 釜

學問 最

塩ハ味噌ノ味ヲ付ケ、醬油ノ味ヲ付ケ、赤漬ケ物ヲ漬クルニ用フ。

塩ヲ水ニトカセバ塩水トナル。塩水ヲ

煮ツムレバ塩殘ル。海ノ水ハ塩水ナリ。

故ニ海ノ水ヲ煮ツムレバ釜ノ中ニ塩殘ル。

日本ニテハ播磨ノ赤穂ノ塩最ヨシ。

塩ハ赤山ヨリ掘リ出ダス。一アリ、コレヲ

山塩ト云フ。山塩ノ出ヅル山ハムカシハ

海ノ底ナリト云フ。海ノ底ガイカニシテ高キ山トハナリシナラン。君等ハ學問シテコレヲ知ルベシ。

海草

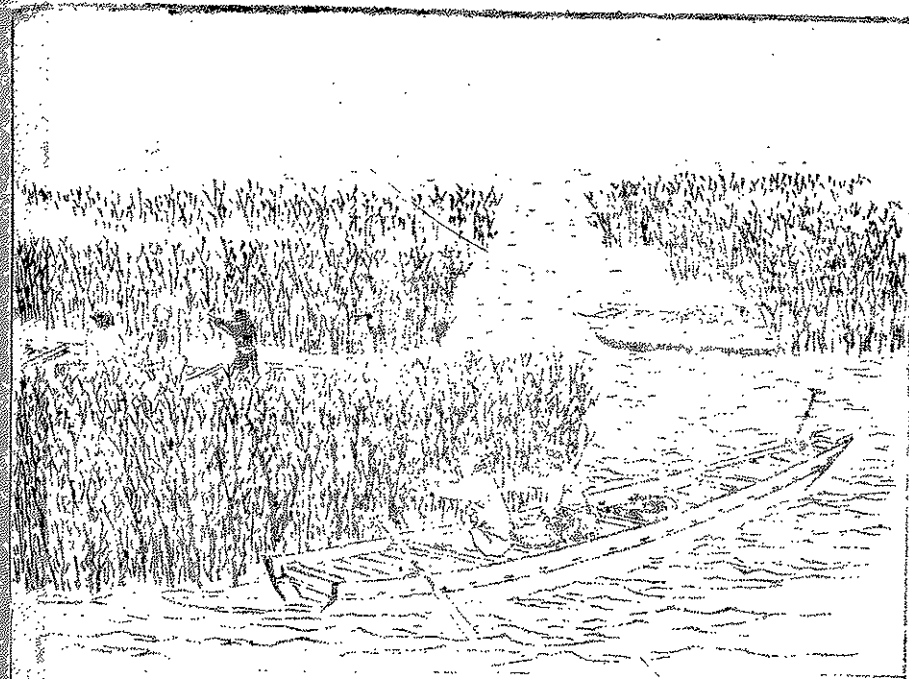
昆布 和布 皆種 薪 髪 肥料 衣服

昆布和布ハ海ノ底ノ草ナリ。海草ニハ皆花ナクシテ小サキ種アリ。海草ハ人食ハルル者アリ、薪トナル者アリ、肥料トナル者アリ。

ル者アリ。昆布和布ハ人ニ食ハル。君ハろねだニテ髪ヲ洗フナラン。君ノ母ハろねだニテ衣服ヲ洗フナラン。ろねだハ海草ヲヤキテツクレル者ナリ。然レドモ今ノろねだハ皆塩ヨリ作ル。

海苔

庭 苔 海苔 大抵 風味 淺 近所 數町 間 並 橋 猶 品



庭ノ石古クナレバ
 美シキ青キ苔ヲ生ズ
 苔ハ小サキ草ナリ
 海ノ岩ニモ亦小サキ
 海草生ズ。コノ海草
 ハ海苔ニシテ其ノ色
 大抵紫ナリ。ソノ風
 味甚善キ故人取りテ
 食物トナス。

海苔ハ亦昆布和布等ノ海草ノ上ニモ生
 ズルナリ。然レドモ善キ品ヲ多ク取ルニ
 ハ海ノ淺キ所ニ木ノ枝ヲ多ク立テテ其ノ
 上ニ海苔ヲ生ゼシム。
 海苔ヲ製スルハ東京ノ近所ニ最盛ナリ。
 海ノ遠淺數間ノ間畑ノ如クニ木ノ枝ヲ井
 ベ立テタリ。是ヲひびト云フ。ひびニハ
 楠ノ枝ヲ用フ。竹ノ枝ヲ用フルコトモア
 レ。楠楠ヲ最善シト云ヘリ。上ノ圖ヲ見

ヨコレハ今ひびニ生じタル海苔ヲ取ル
圖ナリ

昔東京ノ淺草ニ善キ海苔ヲ製セシ故
今ニ至ルマテ淺草海苔ノ名ヲ殘セリ

名ヲ解ケ

旨 蔓 輿 易 非 胡瓜

西瓜 夕顔 冬瓜 南瓜

「吾レハ其旨キモノヲ持テリ 其ノ物ハ

皮アリ身アリ身ノ中ニハ中子アリ中子ノ

中ニハ種アリテ蔓ニ生ズル者ノリ 汝其

ノ名ヲ解カバ汝ニ與ヘシ

「父上其レハ甚解キ易キモノナリ 必瓜

ナラン

「瓜ハ皮アリ身アリ中子アリ種アリテ蔓

ニ生ズ 然レドモ父ガ持テル物ハ瓜ニ非

ズ

「然ラバ胡瓜ナラン

「胡瓜ニモ非ズ 吾ガ持テル物ハ重ニ中

子ヲ食ハルル者ナリ。

「サラハハツカレキ物ナリ。夕顔カ冬瓜

カ南瓜ナラシ。

「太郎善ク考ヘヨ。夕顔モ冬瓜モ南瓜モ

皆中子ヲ食ハルル者ニ非ズ。中子ノ赤キ

物ヲ考ヘ出セ。」

「アア知レリ知レリ。父上吾カ考ヘ善

キニオドロキ給フナ。ゾレハ必西瓜ナラ

シ。



庭。

峯 谷 峙

離 湖 所

尋 低 凹

回 積 腰

コレハ庭ノツキ止

ナリ。築キ山ニニツ

ノ峯アリ高キ方ニた

ほみね低キ方ニほみ

トノ言ス。言ニ
ねト名ツクタリ。

大峯ト小峯ノ間ニ凹キ地アリ。ココニ
白キ小石多キ故此ノ家ノ太郎ガコトヲ白
石谷ト名ツクタリ。妹ハ小峯ノ腰ナル坂
道ニ松ヲ植エ、コレヲ小松峠ト名ヅケタリ。
見ヨ、夕立チノ水大峯ヲ流レ下リ一スヂ
ノ凹キ所ニ集リテ瀧トナリ、白石谷ニオツ
コノ瀧ニ夕立チノ瀧ト名ヅクベシ。

其ノ他大峯小峯ノ水多ク谷ニ集リ谷川

トナリテ山ヲ出テ凹キ道ヲ尋テテ庭ヲ通
ル其ノ様サナガラ川ノ如シ。コノ川ヲ何
ト名ツクカ。白石谷ヨリ出ヅル川ナレ
ハ、白石川ト名ヅケシ。川ハ猶モ低キ所ヲ
尋子テツヒニ池ニ入ル。

池ノ大キナルヲ湖ト云ス、大キナル湖ノ田
リハ一日ニ回リツクニカタシ。海ハ又湖
ヨリ大キナリ。多クノ川ハカク山ヨリ出
テ來テ末ハ海ニ入リ又ハ湖ニ入ル。

雀

稻穂打害 喜 盡 惡

雀ハ愛スベク喜ブベキ鳥ナリ。雀ハ小
キ虫ヲ食ヒ又ハ稻麥等ノ穂ヲ食フ。

アル所ノ百姓雀ガ稻ヲ食フヲ怒リ打チ
ヨリテ雀ヲ獵リ盡シサテ雀ノ害ハ無シト

喜ビレニ其ノ年米ノ出來方甚惡ニカリキ
コレハ雀ヲ獵リ盡シタルニヨリ惡ニキ虫

多クナリテカク稻ヲバ害シケルナリ。

虹

虹如何 深 含 霧 吹

常 次 蒲 色 交 蜜 柑

紺 順

虹ヲ見給ヘ。如何ニ美シキ色ナラズヤ。
織リ物ニモ深メ物ニモカク美シキ色ハ無
シ。

虹ノ色ハ何ニテ深メタルナラキ。コレ
ハ深メタルニ非ズ。君水ヲ含ミ日ヲウシ



口ニシ、霧ヲ吹ト見
 タマハ、日ノ光リ霧
 ニウツリ、虹ノ如キ色
 見ユクシ、夏ノ夕庭
 ニ水ヲマクニ、日ヲ後
 ニスル時ハ、夕日ノ光
 リガ其ノ霧ニウツリ
 亦虹ノ如キ色ヲ出
 スコトアリ。

今虹ハ東ニアリ。東ノ方ニハ霧立ツカ、
 雨フルナラン。虹ハ常ニ日ノ向カヒニ見ユ。
 故ニ夕ノ虹ハ常ニ東ニアリ。朝ノ虹ハ常
 ニ西ニアリ。
 君ハ一一虹ノ色ノ名ヲ知レリヤ。赤ヨ
 リ紫マデ順順ニ並ベリ。其ノ最下ニアル
 ハ赤ニテ、次ギハ蒲色ナリ。蒲色ハ黄色ト
 赤ノ交リタル色ニシテ、大抵蜜柑ノ皮ノ色
 ニ似タリ。故ニ蒲色ヲ蜜柑茶トモ云フ。

日本書紀 卷三 五十一

蒲色ノ次ギハ黄色、其ノ次ギハ緑ナリ。 緑
ノ次ギハ青、青ノ次ギニハ紺アリテ、ソノ上
ナルハ紫ナリ。 コレヲ七色ト云フ。 君ハ
七色ノ順ヲ覺工得ルカ。

虹ハ紫紺、青、緑、黄色、蒲色、赤デ七色。

空氣。

縫 團扇 袖 急 動 煙 空氣
薄 鐵瓶 湯 煙草 魚 次第

滿 所 棒 身體 新

母上ハコノ暑キ日ニ縫ヒ物ヲシ給テ

サゾ暑カラシ、扇ギマ井ラセシ。 團扇ニテ

扇ゲバ、風ノ出ヅルハ何故ナラン。 私ノ思

フニハ、團扇ノ中ニ風ガアルナラン。

然ラズ、團扇ノ中ニイカデカ風アラシ

今汝ガ袖ヲ急ニ動カシテ見ヨ。 ソレ風ガ

出ヅルナラン。 又汝ガ手ヲ急ニ動カシテ

見ヨ。 ソレ亦風ガ出ヅルナラン。

汝ハ學校ニテ空氣ガ好き、空氣ガアシキ

ト云フコトヲ聞キシカ。汝ノ回リニハ空
 氣ト云フ者アリ。團扇ヲ動カシ、袖又ハ手
 ヲ動カセバ空氣モ動ク。空氣ハ動キテ人
 ノ身ヲ吹き、木ノ葉ヲ動カス。今風吹キテ、
 庭ノ木ノ葉ヲ動カスハ空氣ノワザナリ。

空氣ハ目ニ見エヌ者ナリ。空氣ハがら
 すヨリモ猶善クスキ通り、水ヨリモ猶薄キ
 者ナレバ、人ノ目ニハ見エヌナリ。汝ガ口
 ヨリ出ヅルイキモ、鐵瓶ノ湯ダモ、煙草ノ煙

モ次第ニ薄クナレバ、目ニ見エズ。

空氣ハ汝ガ回リニアルノミナラズ、母ガ
 回リニモアリ。空氣ハ亦コノ家ノ内イヅ
 コニモ満チテアリ。夕ダ家ノ内ノミナラ
 ズ、家ノ外ニモ、アノ山ノ上ニモ、空氣無キ所
 ハ無シ。

人ガ空氣ノ中ニ住ムハ、魚ガ水ノ中ニ住
 ム如シ。汝棒ニテ水ヲ動カシテ見ヨ、水動
 キテ波ヲ起コサン。水ノ動クトキハ、魚ハ

風ガ吹クト思フナラン。
 人ノ多クアツマリタル家ハ、空氣タチマ
 チキタナクナル。空氣ノキタナキハ、身體
 ニヨロシカラズ。故ニ學校ニテハ時時マ
 ドヲ開キテ、新シキ空氣ヲ入ルルナリ。

洗濯。

竿 干 掛 襟 垢 破 綻
 緞 苦 裁 縫 帶 昨 年 習
 來 年 洗 濯 襦 袷 袴 裕



竿ニ衣服ヲ掛ケテ
 干セリ。コレハ今朝
 洗濯セシ衣服ナリ。
 才花サンハ常ニ絹
 ノ衣服ヲ著タリ。然
 レドモ彼ノ人ハ洗濯
 ヲ好マズ、故ニ襟ハ襟
 垢ニヨゴレ、袖ハ手垢
 ニヨゴレタリ。才花

サンハ亦縫ヒ物ヲ好マズ、故ニ破レテモ繕フ
コト無ク、綻ビテモ縫フコト無シ。故ニ朋
友ハ彼ノ人ト遊ブコトヲ好マズ。

才松サンハ洗濯ト縫ヒ物ヲ好ム。故ニ彼
ノ人ノ衣服ハ木綿ナレドモ、常ニ新シクシ
テ美シ。

私ノ母ハ常ニ曰フ「衣服ハ洗濯セザレバ
見苦しキノミナラズ、不養生ニナル。身體
ト洗ハザレバ亦不養生ニナル。」ト。

私ハ毎日洗濯ト裁縫ヲ習フ。此ノ襦袢
ト袴ハ私ノ縫ヒシナリ。帯ハ母ノ縫ヒシ
ナリ。私ハ昨年袴ト羽織リノ裁縫ヲ習ヒ終
ハリキ。來年ハ洋服ノ裁縫ヲ習ハン。

金。

- 價銅 錢 盡 貨 文久 數
- 唐銅 砲 鐘 圓 烟管 同
- 磨 真鍮

コノ小刀ハ美シカラズヤ。然リ氷リヨ

リモ光レリ。コレハ鐵ニシテ鍋釜ト同ジ
金ナリ。然レドモヨクミガケバカクノ如
ク光ル。

赤鍋ハ亦鐵ニテ作ルカ。赤鍋ハ銅ニテ
作ル。一錢二錢ノ錢モ亦銅ナリ。銅ニテ
作レル錢ヲ銅貨ト云フ。

文久錢ハ銅貨ナリヤ。文久錢ハ銅貨ニ
非ズ、唐銅ニテ作レルモノナリ。大砲モ鐘
モ亦唐銅ニテ作ル。鍋釜ニハ唐銅ニテ作

リタルモアリ。

ゴコニ又五錢ト十錢ト二十錢ト一圓ノ
錢アリ。此ノ錢ハ白クシテ小刀ノ光リニ
似タリ。コレハ鐵カ。コレハ鐵ニ似タレ
ドモ鐵ヨリ美シ。コレハ銀ナリ。銀ニ
テ作レル錢ヲ銀貨ト云フ。

吾ガ父ノ烟管ハ黄色ニシテ光ル金ナリ
其ノ金ハ眞鍮ナリ。吾ガ兄ノ烟草入レハ
金具モ亦眞鍮ナリ。

きんハ眞鍮ニ似テ、眞鍮ヨリハ美シク、重
キ金ナリ。きんハ黄色ナルヲ以テ黄金ト
モ云ヒ、又コガねトモ云フ。
銀ハ白キ故ニ一ノカねトモ云フ。
鐵ハ磨カザレバ色少シク黒シ。故ニ鐵
ヲくろがねトモ云フ。

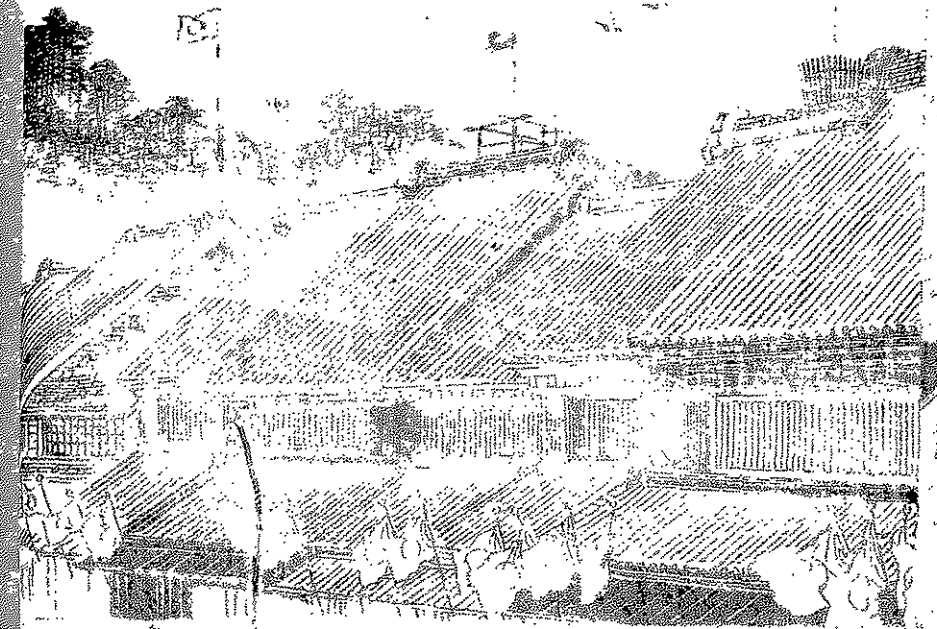
金、銀ハ美シクシテ、世ノ中ニ少キガ故ニ其
ノ價甚高シ。然レドモ金、銀ハ鐵ノ如ク世
ノ用ヲナサズ。君ハ鐵ノ用ヲ盡ク知レリ

ヤ、君ノ知リタルダケ數ヘテ見給ヘ。

春季皇靈祭。

毎 國旗 休業 祭日 參
中 稻 浸 支度 分 項
晝 夜 若 下旬 老人 難
春季皇靈祭 先祖 祖母 全

學校ハ休業シ、家毎ニ國旗ヲ立テタリ。
今日ハ何ノ祭日ナルヤ。今日ハ春季皇靈
祭ニシテ、天子ミヅカラ先祖代代ノ祭リヲ



此給フ日ナリ。此
 祭日ハ春ノ秋ニアリ
 春ノ祭リヲ春季皇靈
 祭ト云ヒ。秋ノ祭リ
 ヲ秋季皇靈祭ト云フ。
 今日ハひがんに中日
 十の下の祖母ハ寺ニ
 参リタリ。父ハ明日
 ヨリ稻ノ種ヲ浸サシ

ト云々度ヲノセリ。今日ハ春ノひがんに
 中日ノリ。こよみニハコノ日ヲ春分ト云

フ。春季皇靈祭ハ必春分ノ日ナリ。

春分ハ毎三十三日頃ニシテ、

コノ日ハ晝ト夜ノ長サ今ク同シ。フレヨ

リ晝ハ次第ニ長ク、夜ハ次第ニ短クナル

吾レ等ノ甚眠ムタキ時來レリ。若キ人ハ

皆夜ノ短キニ苦ム。

六月ノ下旬ニハ晝最長ク、夜最短クナル

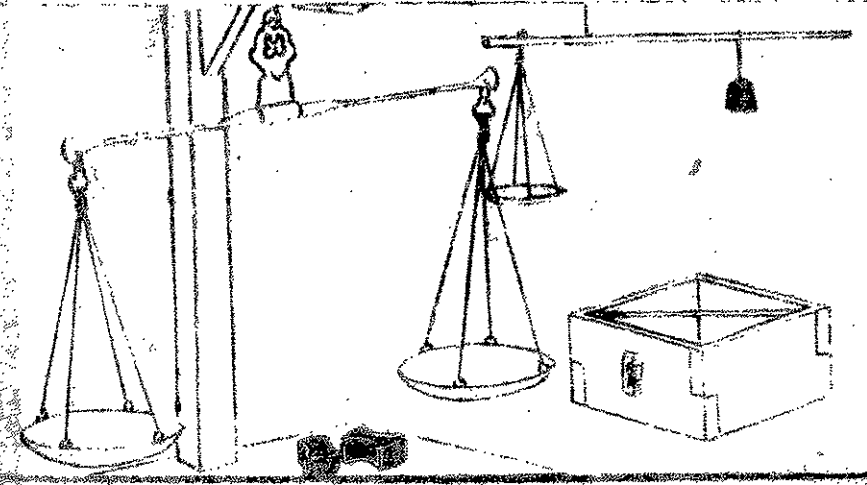
其レヨリ、夜ハ次第ニ長ク、晝ハ次第ニ短ク
ナリテ、九月二十三日頃ニハ晝夜ハ長ク、又
同ジクナル。コノ日ハ秋ノひが、ハ日
ナリ。秋ノひが、ハ中日ヲ秋分トモ云フ
秋季皇靈祭ハコノ日ニアリ。コレヨリ夜
ハナ小次第ニ長クナリテ、十二月中旬ニハ
夜最長クナル。コノ頃ニハ老人ハ夜ノ明
ケ難キニ苦ム。其ノ後夜ハ次第ニ短クナ
リテ、ツヒニ又春分トナル。

三月ヨリ五月マデヲ春トシ、六月ヨリ八
月マデヲ夏トシ、九月ヨリ十一月マデヲ秋
トシ、十二月ヨリ二月マデヲ冬トス。

尺拵秤。

娘 或 長 尺 願 使 計
御 筋 分 間 罫 幅 疊
倍 運動 拵 盃 凡
桶 汲 臺所 教 餘 沫
落 丈

才ヨレト云フ娘或ル
 日、母ニ人形ノ著物ヲ縫
 ヒ給ヘト願ヒケレバ、母
 ハものさしヲ與ヘテ人
 形ノ長ケヲ計ラシメシ
 ニ才ヨレハものさしヲ
 使フコトヲ知ラザリキ
 母ノ云ヒケルハ才ヨ
 レ、御身ハ物ノ長サヲ習



フベシ。コノものさしノ筋ト筋ノ間ノ長
 サハ一分ヅツナリ。一分ヲ十合ニハ
 寸ナリ。見給ヘコノ木ノ背ノ幅ハものさ
 しニテ三寸九分アリ。一ノ一合ニハ
 一尺一尺ヲ十合スレバ一丈ナリ。疊ノ幅
 ハ一尺ノ三倍ニテ三尺アリ。疊ノ長サハ
 六尺ナリ。ものさしニハ色色アリ。コレ
 ハかねざしナリ。かねざしノ一尺ハく
 らざしハ八寸ト同じ長サナリ。く
 らざし

ハ多ク裁縫ニ用ヒラル

御身ハ未ダ物ノ大キサヲ計ルコトヲ知ル
ヲシ 御身ハ一升ノ枳ヲ見レコトヲラシ
オサニカ毎日米ヲ計ルヲ見レナラシ
一升枳ノ廣サハ大抵、ノ本ノ畧程ニテ深サ
ハ三寸モアラシ。オホヨソ盃ニテ七八盃
ノ水ハ一合アリ。椀ノ大キ生ハ大抵一合
ナリ。一合ノ一倍ハ一升ナリ。一升ノ十
倍ハ一斗ナリ。臺所ニ行キテ一斗樽ヲ見

給ヘ。手桶ハ又一斗樽ヨリ人キニシテ大
凡一斗五升カニ斗モ入ルベシ。

アレ見給ヘオサニハ今手桶ニ一盃ノ水
ヲ汲ミテ來レリ。サゾ重カラシ。アノ水
ノ重サハ何程ナラシ。御身ニ重サノコト
ヲ教ヘンカ。

水一升ノ重サハ五百目計リナリ。五百
目ハ何程ナルカ。マダ知ルマシ。然レドモ
御身ハ一貫目ノサツマ芋一百度玉ノ煙草

日大賣ノ...

ヲ知ルカラン。百目ヲ五ツ合スレバ五百
目ナリ。十合スレバ一貫目ナリ。御身ハ科
ヲ使フコトヲ覺ユベシ。アノ桶ノ水ハ二
升アルベシ。ソノ重サハ凡ソ一貫目モアル
ベシ。

凡ソ善キ水ハ輕ク、惡キ水ハ重シ。惡シ
キ水ハ一升ノ重サ七百日ニ餘ルコトアリ。
惡シキ水ノ中ニハ様様ノキタナキ物アリ。
石灰又ハ塩ナド多クトウ込ミテアル故ニ

水ヲ重クスルナリ。カカル水ニテモ厚
んヲ使フトモ、沫立ツコトナシ。沫立ツコ
ト無ケレバ垢ヲ落サズ。

終リニ又長リノコトヲ教ヘシ。疊一枚
ノ長サヲ一間ト云ヒ、六十間ヲ一町ト云ヒ、
三十六町ヲ一里ト云フ。サレバ疊六十枚
ノ長サハ一町ニシテ、一里ハソノ三十六倍ナ
リ。人モシ休マズニアユム時ハ、大抵一特
間ニ一里ヲ行クベシ。

雪ノウチニ

春ハキニケリ。鶯

ノ氷レルナミダ

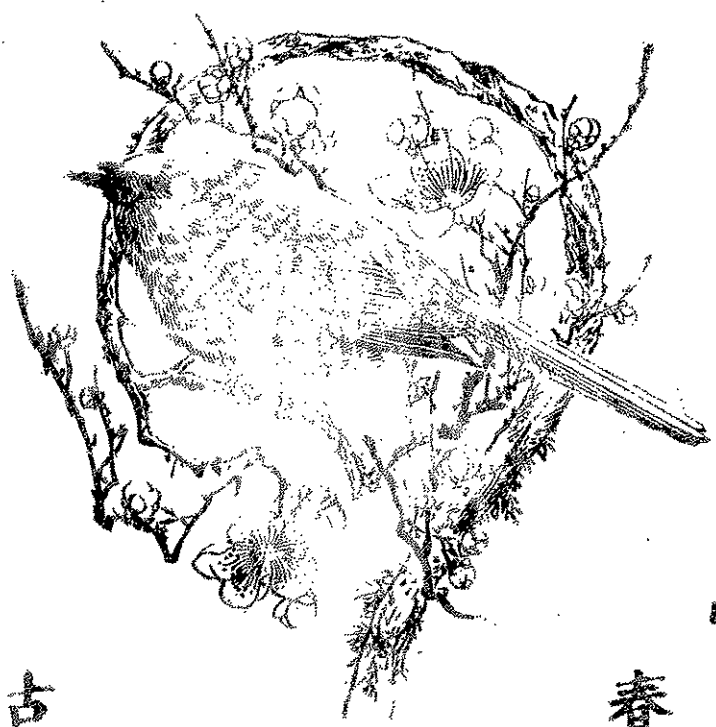
ケフヤ解クラン

鶯ノナミダノ

コホリ解クソメテ

古巢ノガラヤ

春ヲ知ルラン。



返響

獨馬鹿堪慈口遂勞

訴隱馬聲笑返響

親切

梅吉獨山ニ遊ヒ面白サニウカレ聲ヲ

上ゲテ「アラアラアラ」ト云ヒケレバ誰レト

モ無ク亦「アラアラ」ト云ヒキ。梅吉「誰

レダ」ト云ヘバ又「誰レダ」ト云ヒサナカラ梅

吉ガ口マ子ヲナス。梅吉腹ヲ立テテ馬鹿

ヤト云へバ又馬鹿ヤト云フ

梅吉怒リニ堪へズ有リト有ラユル惡口
ヲ並べ立テケレバ又一一口マ子ヲシケリ
梅吉マスマス怒リテ林ノ中ヲ尋子出リケ
レド遂ニ人ノカゲヲダニ尋子得ザリケリ
梅吉勞レテ泣ク泣ク返リ父ニ訴ヘテ曰
フニハ今日快ク山ニ遊ビシニ多クノ子ト
モ林ノ中ニ隠レテ馬鹿ヤ馬鹿ヤト私ヲ罵
リ其ノ外有リト有ラユル惡口ヲ吐キキリ

父笑ヒテ曰フ梅吉ソレハ必汝が先ヅ罵
リシナラン其ノ聲ハ子トモニ非ズこた
まト云フ物ナリこだまハ響キノ返リテ
ニタビ聞ユル者ナレバ亦返響トモ云フナリ
ヨク聞ケ汝惡口スレバ惡口ガ返リ來リ汝
親切ニ云へバ親切ノ言ガ返リ來ルナリト

紙墨

- 汚 挑灯 行燈 奇麗 油煙
- 溜 美濃 半紙 楮 西洋

藁 粗末

如何ニ汚キ物ニテモ善ク製スレバ奇麗
 ニナリ善ク用フレバ大切ノ物トナル。行
 燈挑灯らんぶナドニ油煙ノ溜ル時ハ誰レ
 モ皆汚シト思フナリ。然レドモ油煙ヲ善
 ク製スレバ奇麗ニシテ光リアル墨トナル
 紙ハ何ニテ製セラルルヲ知ルヤ。美濃
 紙半紙ノ如キハ楮ノ皮ヨリ製セラルレド
 西洋紙ハ甚汚キモノヨリ製セラル。西

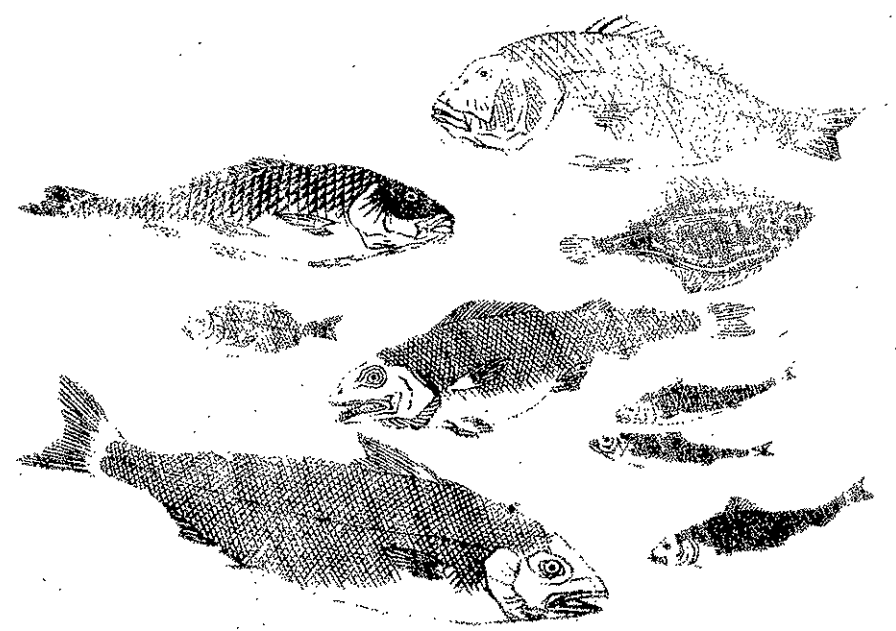
洋紙ハ皆古キ綿屑ニテ製レタル物ナリ
 破レタル木綿ヲギレタル綿ナリトモ善
 ク製スレバ奇麗ナル紙トナル。藁ノ如ク
 粗末ナル物ニテモ亦上等ノ紙トナル

魚

- 圖 鯉 魚 鯛 鮭 鱒 鮠
- 鱒 鯉 鮎 鰻 鮎 鮎
- 鮎 鮎 鮎 鮎 鮎 鮎
- 鮎 鮎 鮎 鮎 鮎 鮎

コノ魚ノ圖ヲ見ヨ。汝ハイツレガ鯛ニ

日本書紀...
 レテ、イツレカ鯨ナルヲ見分ケ得ルカ、
 海魚ノ中最美シク、最旨キ魚ナリ。鯨ハ
 一面ハ黒ク、一面ハ白キ魚ニレテ、其ノ黒キ方
 ニニツノ目アリ。鱈ハ美シキ魚ニ非レド
 モ、雪フル頃ニハ亦旨シ。鮭ハ食用ニレ
 又肥料ニス。ゴロ等ノ魚ハ皆海ニ住ム。
 鯉、鮒ハ川、池又ハ瀉ニ住ム。鮭ハ海ニ住
 ノドモ子ヲ生ム爲メニ、毎年海ヨリ川ニ來
 ル。



汝ハ釣リヒレコト
 アリヤ、魚ハ釣リテ
 取り、又網ニテモ取ル。
 鮭、鱈ハ網ニテ取ル。
 網ニ長キ綱ヲツケテ、
 引キ上ケルヲ引キ網
 ト曰フ。
 汝ハ鱈又ハ鮭ノ漁
 ヲ見シコトアリヤ。

日本書紀...
 卷之三
 三
 三

大ナル網ノ中ニ取ラレタル魚幾チ魚トナ
ク其ノ數ヲ知ラズ。其ノ網ヨリ魚ヲスク
ヒ取りテ、海バタニ積ミ上ゲタルケレキハ、
雪ノ山モ銀ノ山モオヨビ難シ。
魚ノ中最美レキハ金魚ナリ。然レドモ
金魚ハ食ヒカタク。

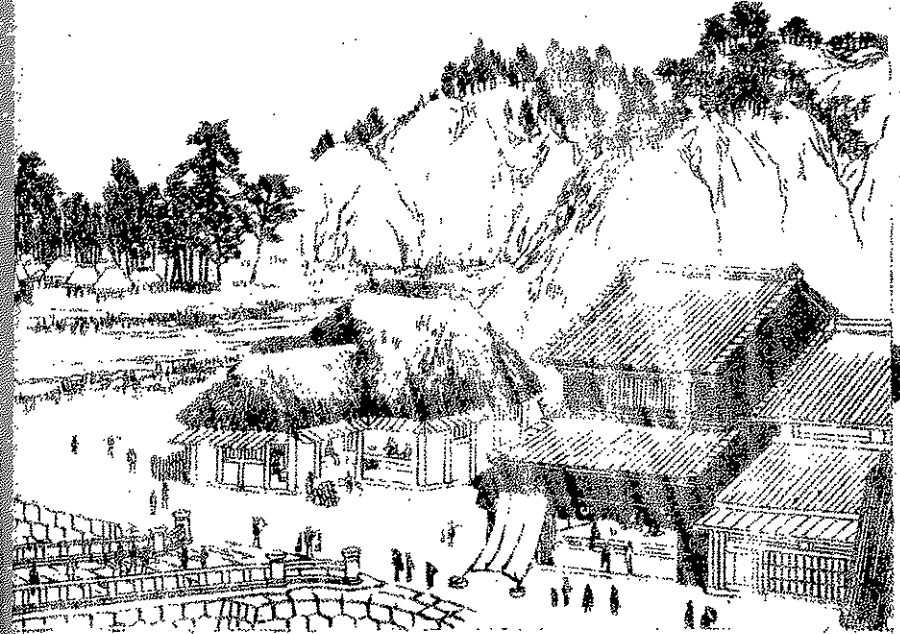
山村

祖父 夫妻 妹 孫 親族
農 工 商 商人 左官 等

職業 家 病 少 相

順 集 憐 鄰 町 村 橋

親子、兄弟、姉妹、夫妻、祖父、祖母、孫等ハ親族
ナリ。親族ハ一ツノ家ニ住ミテ一家ト云
フ。親、祖父、祖母ハ子ト孫ヲソダテ、子ト孫
ハ親、祖父、祖母ニ順フ。兄、姉ハ弟、妹ヲ憐ミ
弟、妹ハ兄、姉ニ順フ。夫ハ妻ヲ助ケ、妻ハ夫
ニ順フ。病アレバ一家相助ケ、喜ビアレバ
一家相樂ム。



百姓ノ家アリ商人
ノ家アリ職人ノ家ア
リ。百姓ハ田畑ヲタ
ガヤスコレヲ農業ト
云フ。商人ハ賣リ買
ヒヲナスコレヲ商業
ト云フ。職人ニハ大
工アリ左官アリコレ
等ハ工業ヲスル人ナ

リ 吾ガ家ノ鄰ニ農ノ家ト工ノ家アリ。

吾ガ父ノ業ハ商ナリ。

農工商ノ家集リテ村又ハ町トナル。吾

ガ家ハ櫻田町ニアリ。町ニハ商家多シ。

町ノ北ニ山アリ。小川其ノ山ヨリ出デテ

町ノ東ヲ廻ル。川ニハ石橋掛カリ。橋

ヲワタレバ梅田村アリ。村ニハ農家多シ。

父ハ梅田村ヨリ米ヲ買ヒ町ニ行キテ賣ル

農ナケレバ人ハ食物ヲ得難ク工ナケレバ

家ヲモ道具ヲモ得難ク、商ナケレハ遠キ所
ノ物ヲ買フコトヲ得ズ。

帝國

府 縣 郡 區 境 役所
戸長 天皇 帝王 戒
睦居

吾ガ父ハ家ノ主人ナレバ、常ニ一家ノ人
ヲ戒メテ、家内ニ惡シキコトノ無キ様心付
ケテ居ルリ。村町ニモ亦戸長アリ、村内町

内ヲ戒ハ、村町ヲ多ク集メテ郡又ハ區ト
云フ。郡ニ郡役所アリ。區ニ區役所アリ。
郡區ヲ集メテ國ト云フ。國ノ境ハ山川
又ハ海ナリ。君ノ居ル村ハ何ノ國ノ何郡
ニアルヤ。國ノ境ニハ何山アルヤ
郡又ハ國ヲ集メテ府又ハ縣ト云フ。君
ハ何縣何國何郡何村ニ住ムヤ。多クハ府
縣ヲ集メテ帝國ト云ヒ、或ハ王國ト云フ。
帝國ノ主ヲ天子ト云ヒ、又ハ帝ト云フ。王

國ノ主ヲ王ト云フ。吾レ等ハ日本帝國ニ
住ム。吾ガ日本ノ天子ヲ天皇ト申ス。日
本帝國ノ田リハ皆海ナリ。

鐵

諸君 針 鋏 錐 鋸 削 鋸 鑄
鍛 鋏 鎌 以 新 刈 鑿
鉋 仕事場 鋸 庖丁 不自由
諸君ハ鐵ノ用ヲ知レリヤ。諸君ガ母ノ
用ヲル針モ鐵モ鐵ニテ作レルモノナリ

針

針ト鋏ナケレバ衣服ヲ縫フコト能ハズ。
鍋釜庖丁モ鐵ニテ作レリ。庖丁ナケレ
バ魚野菜ヲ切ルコト能ハズ。鍋釜ナケレ
バ食物ヲ煮ルコト能ハズ。
諸君ノ中ニ農アラバ鋤鎌鋏ノ用ヲ知ル
ベシ。鋤ナクバ何ヲ以テ穴ヲ掘ラン。鋏ナ
クバ何ヲ以テ田畑ヲ打タン。鎌ナクバ何ヲ
以テ稻麥ヲ刈ラン。
諸君ノ中ニエアラバ大工ノ道具ヲ知ル

ナラン。穴ヲアクルニ錐ヲ用ヒ、釘ヲ打ツ
 ニ錐ヲ用フ。鋸ニテ木ヲ引キ切り、鑿ニテ
 穴ヲ掘リ、鉋ニテ削リ、又鉋ニテ仕上げヲナ
 ス。錐、釘、鋸、鉋、鑿、鉋ハ皆鐵ニテ作レリ
 コレ等ノ道具ナケレバ、家ヲ作ルコト能ハ
 ズ。世ノ中ニ鐵ナカリセバ、人ノ衣食住イ
 カニ不自由ナラン。

鐵ハ只コレ等ノ用アルノミニアラズ、世
 中ニ甚大切ナル用ヲナスコト猶多シ

諸君ハ後ニコレヲ學ブ時アルベシ

鐵ノ道具ヲ作ルニハ様様ノ仕方アリ。

鐵ヲ強ク燒キ、ヤハラカニシテ、錐ニテ打チ、

鋤、鉞等ヲ作ル。コレヲきたふト云フ。鍛

フル人ヲかちト云フ。

鐵ヲ火ニテトカシ、かたニツギ込ミテ、鍋

釜等ヲ作ル。コレヲいるト云フ。鑄ル人

ヲいものト云フ。

イザ諸君ニかちノ仕事場ヲ見ヤン。



シロガ子ト

シロガ子ト

コガ子ト玉モ

コガ子ト玉モ

ナニカセシ

ナニカセシ

ミガキニミガケ

イノチノ親ト

トギニトダ

ミナ人ノ

名ニ光リナキ

タノモニセオフ

ク口ガ子ト

ハルアキノ

ヌケバ露チル

鉄ヤノニガ子

氷リノヤイバ

鎌ヤナニガ子

終

日本書紀

卷三

合

日本書林 第三

明治十九年二月十五日 敬權免許
同 二十年八月九日 校正

定價五錢

著者

新保 繁

次

東京府士族

神田區本廣町一番地

出版人

原

亮

一郎

日本橋區本町三丁目一七番地



金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂支店

大朝

石川縣八幡町大朝

社会科

明治20

e 4